

# 第3章

## 地域別の復旧・復興の取り組み状況

# 第1節 気仙沼・本吉エリア(気仙沼市・南三陸町)

気仙沼・本吉エリアは、太平洋に面した沿岸域です。リアス式海岸の豊かな景観は波が静かなため天然の良港となり、古くから水産業が基幹産業として栄えてきました。湾内は日本有数の養殖漁場でもあります。震災でこのエリアの津波による浸水範囲は28km<sup>2</sup>と広範囲にわたり、甚大な被害

が発生しました。平成26・27年度では復旧期に続き、高上げ工事を基盤にしたまちづくりが行われ、防災集団移転促進事業や災害公営住宅整備事業が進み、災害公営南気仙沼(幸町)地区で引き渡しが行われました。「南三陸病院・総合ケアセンター南三陸」

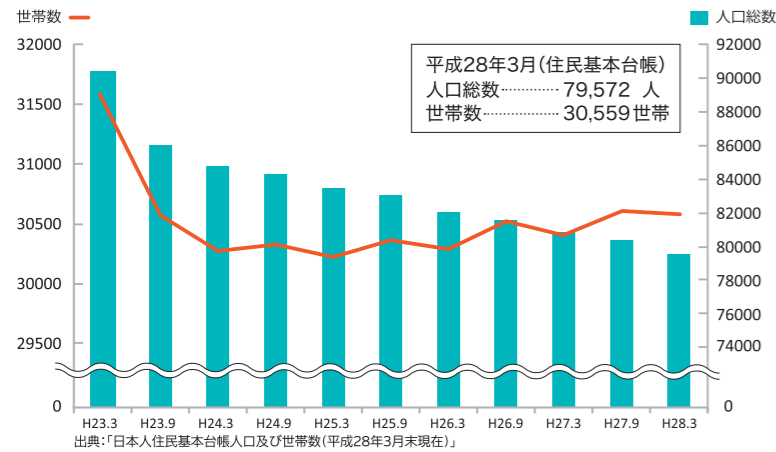
や波路上保育所、戸倉地区・歌津地区の子育て拠点等、新しい施設の誕生とともに、今も残されている応急仮設住宅での高齢者見守り事業も継続され、暮らしやすいまちづくりが進められました。

また、水産業については、新しい南三陸町地方卸売市場の完成や気仙沼「海の市」の本格的な営業再開、南気仙沼地区と鹿折地区の一部を水産加工施設等の集積地とするための整備、小森ふ化場の完成、赤岩港水産加工団地の整備等、基盤が整いつつあります。また、水産拠点として発展的な復興を遂げるため、観光と連携するほか様々な事業が行われました。

震災遺構としては被災した気仙沼向洋高校校舎等の保存整備が決定し、防災・減災へ活用される予定です。

そのほか、平成25年に着工した大島架橋事業や、地域の物流を担う三陸沿岸道路の整備が進められ、復興の推進力となる各種事業が進みました。

## ■気仙沼・本吉エリアの人口・世帯数の推移



## ■被災の状況

### ●人的被害(平成28年3月31日現在)

1,834人 死者	県全体の約17%	432人 行方不明者	県全体の約35%
--------------	----------	---------------	----------

### ●住宅被害(平成28年3月31日現在)

11,626戸 全壊	県全体の約14%	2,749戸 半壊	県全体の約2%
---------------	----------	--------------	---------

### ●避難状況(県全体ピーク時)

154箇所 避難所	県全体の12% (平成23年3月15日 午前11時)	24,984人 避難者	県全体の約8% (平成23年3月14日 午後6時)
--------------	-------------------------------	----------------	------------------------------

### ●応急仮設住宅入居者(平成28年3月31日現在)

7,871人 プレハブ住宅	県全体の約35%	1,584人 民間賃貸借上住宅	県全体の約8%
------------------	----------	--------------------	---------



写真:津波が押し寄せる様子(南三陸町)



写真:倒壊した家屋(気仙沼市)



写真:震災後の伊里前地区(南三陸町)

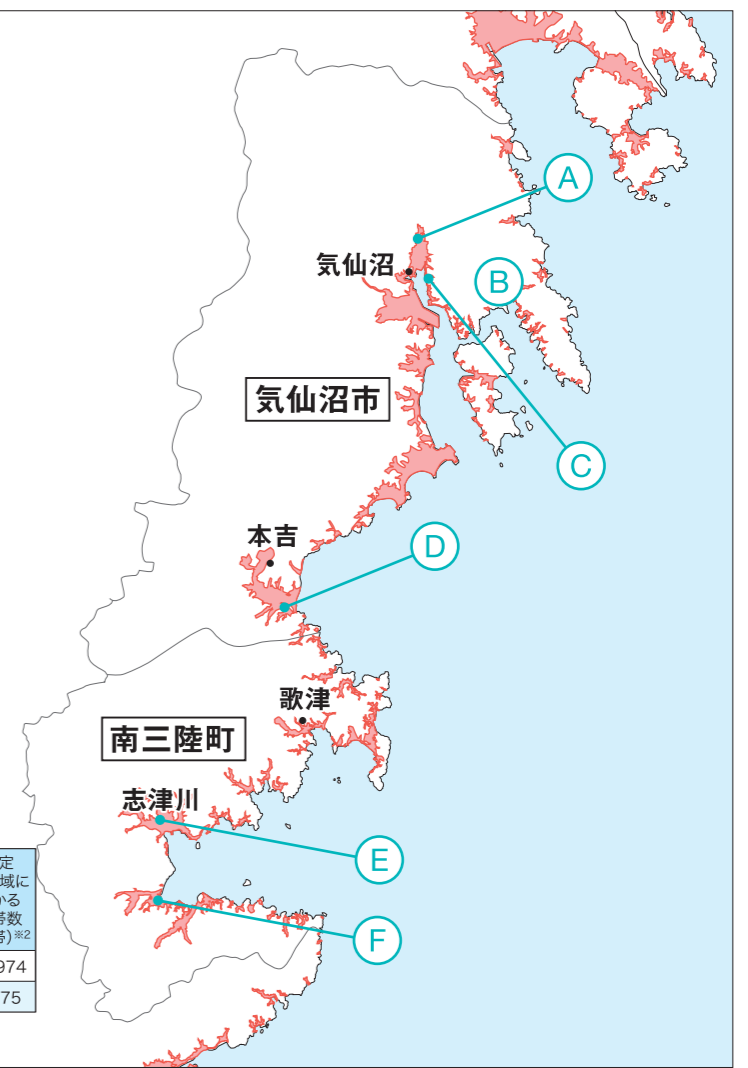
## 浸水域図

### 津波の観測値(浸水深)

地域名	(m)	調査場所
気仙沼	12.0	五十鈴神社脇遊歩道付近
気仙沼市本吉	13.0	本吉町赤崎海岸
南三陸町歌津	14.7	歌津駅舎
南三陸町志津川	15.9	津波避難ビル

平成23年東北地方太平洋沖地震津波の概要(第3報)(一般財団法人日本気象協会)

凡例	浸水域
国土地理院	



### 被災市町の基本データ及び被災関係データ

出典:総務省統計局刊行「統計でみる市区町村のすがた2015」

地域名	人口総数(人)	世帯数(世帯)	総面積(北方地域及び竹島を除く)(km <sup>2</sup> )	可住地面積(km <sup>2</sup> )	浸水域面積(km <sup>2</sup> )※1	推定浸水域にかかる人口(人)※2	推定浸水域にかかる世帯数(世帯)※2
気仙沼市	73,489	25,457	333	93	18	40,331	13,974
南三陸町	17,429	5,295	164	37	10	14,389	4,375

※1 国土地理院:H23年4月18日公表 ※2 総務省統計局:H23年4月25日公表

## ■被災の状況

### ① 気仙沼市鹿折地区



鹿折地区は震災当夜に大火災が発生し、一帯が焼き尽くされました。打ち上げられた大型漁船は平成25年に解体されました。

### ④ 気仙沼市本吉地区



震災の影響により、JR気仙沼線も全線不通となりました。陸前小泉駅付近の高さ約11mの高架橋には、民家の屋根が漂着していました。

### ② 気仙沼市唐桑地区



カキの養殖が盛んな唐桑半島には震災以前は海いっぱい養殖いかがが並んでいましたが、津波により壊滅的な打撃を受けました。

### ⑤ 南三陸町志津川地区



南三陸町防災対策庁舎は赤い骨組みだけが残り、津波は12mある庁舎を飲みこみ、屋上に避難した多くの方々の尊い命が犠牲になりました。

### ③ 気仙沼港東岸



気仙沼港では津波襲来と同時に大火災が発生、市街地にも燃え広がりました。約10日間燃え続け、焼失面積は約74haに上りました。

### ⑥ 南三陸町戸倉地区



海岸から近い場所にあった戸倉小学校も津波により屋上まですべて水没し、中の施設、設備、備品も含めて全壊しました。

復興への取り組み 01

環境・生活・衛生・廃棄物

平成23年4月から提供が始まった応急仮設住宅(プレハブ住宅)は、復旧期の3年間で2市町計5,699戸が整備されましたが、平成28年3月末現在、気仙沼市で2,178戸、南三陸町で1,327戸の仮設住宅が未だ供与されています。恒久的な住まいの確保に向けて防災集団移転や災害公営住宅の整備が進んでおり、平成28年3月末時点で防災集団移転の整備計画数77地区ほぼ全て着手、災害公営住宅整備事業の整備計画戸数2,871戸概ね着手しており、随時引き渡しが行われています。気仙沼市では、これまで住んでいたコミュニティの維持を目的に多くの地区で災害公営住宅と防災集団移転団地との併設が図られました。南気仙沼地区をはじめとした多くの災害公営住宅で入居が始まり、防災集団移転も併せて、引き渡しが進みました。また、南三陸町は、平成26年度に入居復興住宅や名足復興住宅等が完成、入居が始まりました。入居にあたっては、地域優先枠及び福

祉優先枠が設定されました。気仙沼市では、盛土嵩上げによる安全な住居系市街地の整備と、商業・工業系市街地の整備を行いました。活気ある商業地及び観光地の早期復興を図るため、鹿折地区、南気仙沼地区が平成29年度、魚町・南町地区が平成30年度の完成を目指し、造成工事が進められています。内湾地区には、災害公営住宅と店舗を組み合わせた複合施設の建設が進められています。南三陸町は、盛土嵩上げに時間がかかりましたが、「なりわいの場所は様々であっても、住まいは高台に」を基本原則として、住宅や公共施設を高台等の安全性の高い場所に配置し、住まいやなりわいの場の近くに安全な避難場所・避難経路を確保する職任分離のまちづくりが進んでいます。平成28年3月には「南三陸町第2次総合計画」として復興後を見据えた新たなまちづくりの指針を策定しました。志津川地区では平成26年5月にランドデザインが提案

され、「回遊性と親水性ある街並み」の具現化が進められています。地域交通については、壊滅的な被害を受けたJR気仙沼線(柳津-気仙沼間)においては平成24年から、JR大船渡線(気仙沼-盛(岩手県)間)においては平成25年からBRT(バス高速輸送システム)による運行が再開されました。気仙沼市及び南三陸町では、復興後のまちづくりの変化に対応するため、地域内の公共交通ネットワークのあり方についての検討が進められています。南三陸町では、国の関係7府省が共同で推進している「バイオマス産業都市」に選定され、食品廃棄物や下水汚泥を用いたバイオガス発電・熱利用等の取り組みが進められました。なお、災害廃棄物については、このエリア全体で1,694千t発生しましたが、平成26年3月までに全ての処理が完了しました。



写真:復興住宅竣工(南三陸町)



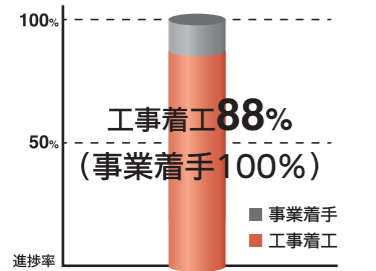
写真:入谷復興住宅(災害公営住宅)(南三陸町)



写真:南郷住宅(災害公営住宅)(気仙沼市)

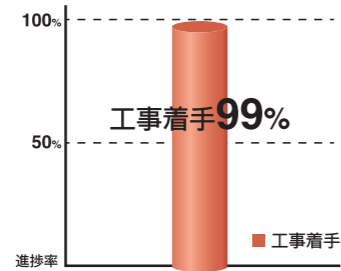
◎復興の進捗状況(平成28年3月31日現在)

●災害公営住宅の整備状況



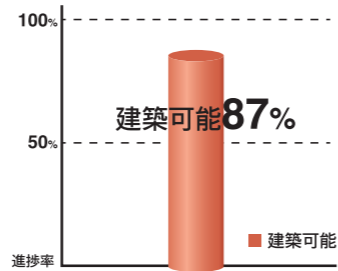
着工戸数	2,516戸
着手戸数	2,871戸
計画戸数	2,871戸

●防災集団移転促進事業進捗状況(着手)



造成工事着手数	76地区
計画地区数	77地区

●防災集団移転促進事業進捗状況(建築可能)



住宅等建築工事可能地区数	67地区
計画地区数	77地区

復興への取り組み 02

保健・医療・福祉

南三陸町で唯一の総合病院であった公立志津川病院は、震災で被災しました。震災後は町内に設置した公立南三陸診療所と、登米市米山町の公立志津川病院で診察を行っていましたが、平成27年12月に、医療・保健・福祉が連携する「南三陸病院・総合ケアセンター南三陸」が開院しました。これにより、住民の長距離通院が解消されました。災害拠点病院である気仙沼市立病院は震災により壁に亀裂が入る等の被害を受けましたが、安全な高台に移転、新築し災害救急医療の機能充実を図るとともに、住民の生命と健康を守る中核的医療機関として整備が進められています。平成26年に起工し、平成29年10月末開院を目指しています。福祉施設については、被災した気仙沼市総合市民福祉センターの障害者生活支援や高齢者福祉等の機能をまとめた「市民福祉センター」が、鹿折地区災害公営住宅との

合築により平成28年12月に完成予定です。被災した福祉施設を災害の影響を受けない安全な場所で復旧するとともに、保健・医療・福祉・介護のネットワークを強化し、誰もが安心して生活できる地域環境づくりが進められています。子育てに関しては、気仙沼市で被災し、岩月保育所及び旧最知保育所で保育を行っていた波路上保育所が移転、再建され、平成26年4月から入所が開始されました。また、鹿折児童館は、移転する鹿折保育所(認定こども園として運営予定)との複合化により平成29年度内に完成予定となっています。南三陸町では、平成27年度に、南三陸地域子育て支援センターとともに、戸倉地区・歌津地区の2地区で子育て拠点の設置が完了しました。安全快適な環境で子どもたちの健全な保育を行い、地域における子育て支援機能の充実を図るとともに、被災した保育所や放課後児童クラブを安全な高台に移転することができました。

被災者へのケアも、重要な取り組みのひとつです。2市町では復旧期から継続して、社会福祉協議会等に業務委託した応急仮設住宅入居者に対する高齢者等の見守り事業が行われました。また、気仙沼市では新たに気仙沼市内3地区と岩手県一関市に「サポートセンター」が設置され、社会福祉士と生活相談員等による支援チームが配置されました。このセンターでは、応急仮設住宅入居者の見守り、総合相談、交流活動の支援が行われました。更に、災害公営住宅等での新しい暮らしにスムーズに移行できるよう、平成27年1月に気仙沼西地区の市営南郷住宅で、平成28年3月には気仙沼南地区の市営幸町住宅で高齢者相談室が開所しました。平成28年9月には鹿折地区の市営鹿折南住宅での開所を予定しています。また、「みやぎ心のケアセンター気仙沼地域センター」を中心とした、心のケアについての取り組みも継続されています。



写真:南三陸病院・総合ケアセンター南三陸(南三陸町)



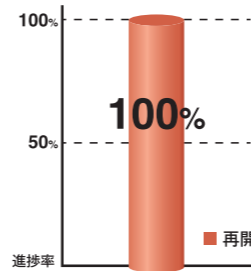
写真:波路上保育所(気仙沼市)



写真:戸倉地区子育て支援拠点施設落成式(南三陸町)

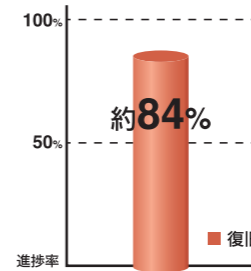
◎復興の進捗状況(平成28年3月31日現在)

●高齢者福祉施設(入所施設)



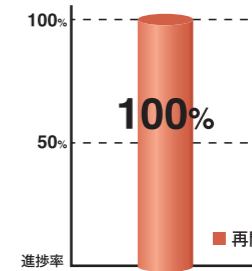
再開施設数	18施設
被災施設数	18施設

●保育所(へき地保育所含む)



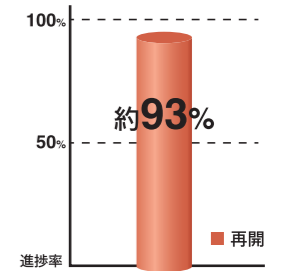
復旧済み施設数	6施設
被災施設数	7施設

●医療施設



再開施設数	8施設
被災施設数	8施設

●障害者福祉施設



再開施設数	14施設
被災施設数	15施設

復興への取組み 03

経済・商工・観光・雇用

気仙沼市では、気仙沼市産業復興支援事業として、被災した産業の早期復旧・復興のため、国や県の各種支援策を補完した独自の支援策を創設しました。具体的には、中小企業振興資金制度、地域商業等計画策定事業補助金、物産品販路拡大等事業補助金等で、多くの事業者を支えました。

震災後は仮設商店街が多く誕生しましたが、新しいまちづくりが進む中で、仮設での復旧から本格的な復興に移るところもあります。南三陸町の仮設商店街である「南三陸さんさん商店街」は、平成28年12月に仮設での営業を終え、平成28年度中には嵩上げた志津川地区高台移転造成地の商業整備エリアに移転予定です。

観光については、平成27年の観光客入込数は気仙沼圏域で2,154千人で、震災前の平成22年は3,624千人でした。気仙沼市は、平成25年から「観光特区」に認定され、事業者に対する税額控除等の特例措置が行われる等、観光産業の復旧・復興に向

け、水産業と連携した取組みを推進してきました。平成26年7月には気仙沼を象徴する観光スポットである「海の市」がリニューアルし、再建されました。気仙沼市の観光拠点施設として、にぎわいの創出や、雇用の創出、地元企業の販路拡大を図っています。更に、まちづくり会社「気仙沼地域開発」は、平成30年開業を目指し、観光商業拠点の建設計画を進めています。また、南三陸町では、平成28年5月に海水浴場のサンオーレ袖浜の復旧工事を開始予定です。

復旧期から引き続き、被災者自身が震災の体験を語りながら被災地を訪れる観光客を案内する「語り部ガイド」等の取り組みも行われました。震災の記憶の風化を防止するとともに、「復興ツーリズム」により復興の加速化が期待されます。

さらに、震災の復興支援及び震災の記憶を未来に残していく目的で始められたイベントとして、気仙沼市や南三陸町ほか、

沿岸部を会場にした、ツール・ド・東北2014及び2015が開催されました。

雇用については、気仙沼公共職業安定所管内の有効求人倍率は、平成28年3月末で1.75倍と1倍を超えています。しかし、特に水産物加工等の生産工程の職業や保安の職業、福祉関連の職業は求職者数に対して、求人数が大きく上回りました。県では、就職支援のためのサポートセンターを設置し、求職者の掘り起こしから被災求職者等の様々な状況、段階に応じた就職関連支援策を提供することにより、被災求職者等の再就職を支援したほか、緊急雇用創出事業を活用した雇用創出に取り組みました。



写真: 志津川地区観光交流拠点造成完了現地見学会(南三陸町)



写真: 気仙沼市魚市場整備イメージパース(気仙沼市)



写真: 海の市(気仙沼市)

復興への取組み 04

農業・林業・水産業

このエリアでは低平地に広がっていた水田等の農地の多くが浸水被害を受け、復旧が必要な農地は1,135haでしたが、平成28年3月末までに1,016haの復旧が完了しました。ほ場整備を契機に営農再開者が増え、平成26年に「平成26年度気仙沼・南三陸地域農業経営セミナー」を開催するなど、津波被災地域における営農再開支援が行われました。

2市町の基幹産業は水産業です。このエリアには61港の漁港がありますが、全ての漁港が被災しました。平成28年3月末までに、58港が水揚げができるまでに復旧を完了しました。

気仙沼市では、一番大きな気仙沼市魚市場が震災後いち早く再開し、平成27年度まで19年連続かつおの水揚げ日本一を達成しています。更なる発展を目指し、気仙沼市魚市場整備事業として、北日本最高位の水揚げを目標に、気仙沼市魚市場の整備が進められる予定です。また、発展した漁

業地域づくりのために、水産業と観光が連携した気仙沼市の「海の市」整備や、南気仙沼地区と鹿折地区の一部を水産加工施設等の集積地とする整備、赤岩港水産加工団地の整備、朝日町の造船団地整備及び燃油貯蔵施設用地の取得整備のほか、気仙沼造船施設整備高度化事業や漁業用燃油施設整備事業により、水産関連施設の整備も進められました。

南三陸町では、平成28年6月に新しい南三陸町地方卸売市場が完成予定です。また、志津川漁港本港地区を除く23漁港で漁業集落防災機能強化事業が行われています。そのほか、震災前から長年にわたり南三陸町の水産業を支えてきたシロサケ稚魚の生産を行うため、平成27年9月に南三陸町小森ふ化場が再建しました。最新設備が導入され、飼育する際の水の安定供給や事業の効率化、労働力の軽減が図られました。平成28年11月には水尻ふ化場の建設工事も開始予定です。また、宮城県漁業

協同組合志津川支所戸倉出張所のカキ養殖場が平成28年3月にASC(水産養殖管理協議会)認証を取得しました。

林業に関しては、南三陸町が名足地区及び入谷地区で整備を進めていた災害公営住宅の建設を、地元建設業関係・林業関係・製材業関係等からなる「南三陸町木造災害公営住宅建設推進協議会」が担い、南三陸町産材がふんだんに使用されました。また、南三陸町では町有林等約1,300haの森林が平成27年11月にFSC(森林管理協議会)認証を取得しました。平成26年3月に、気仙沼地域エネルギー開発株式会社が建設を進めていた木質バイオマス発電プラントが完成。燃料には地元の森林組合等から購入する間伐材が使用され、林業をはじめ地域経済の活性化にも繋がりました。



写真: 前浜漁港 震災直後(気仙沼市)



写真: 前浜漁港 現在(気仙沼市)

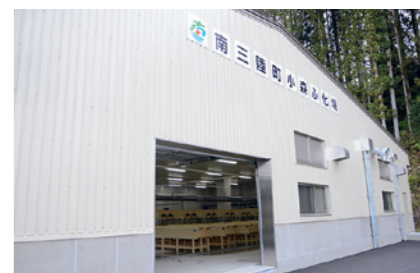
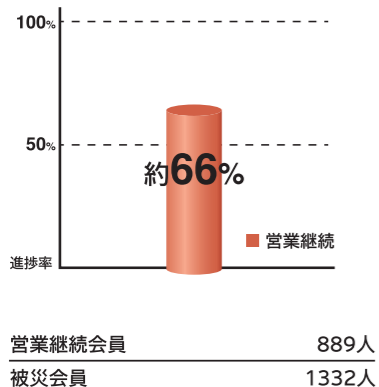


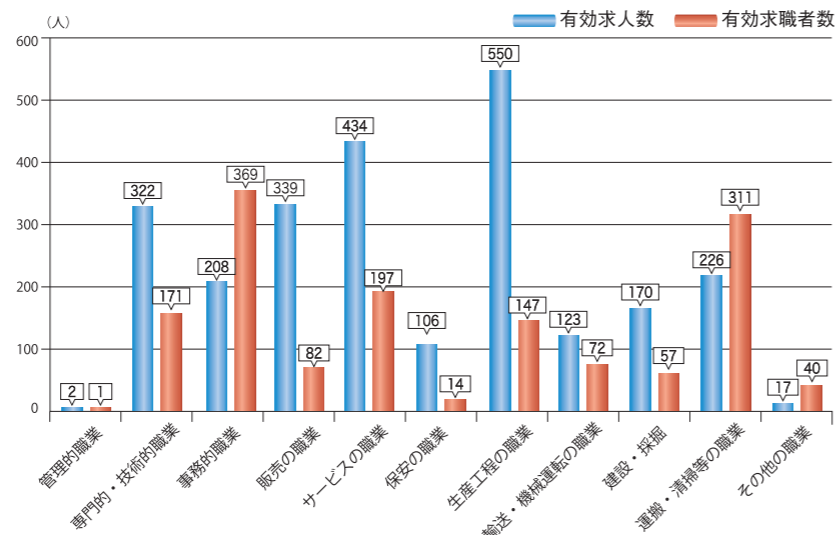
写真: 小森ふ化場(南三陸町)

◎復興の進捗状況(平成28年3月31日現在)

●被災商工業者の営業状況

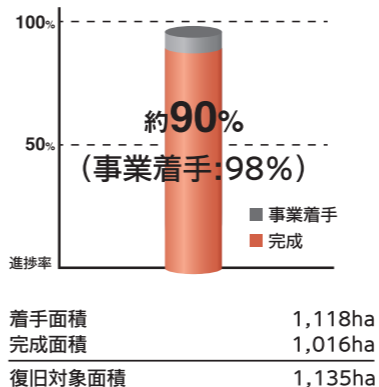


●有効求人・求職者数の動向(ハローワーク気仙沼管内)

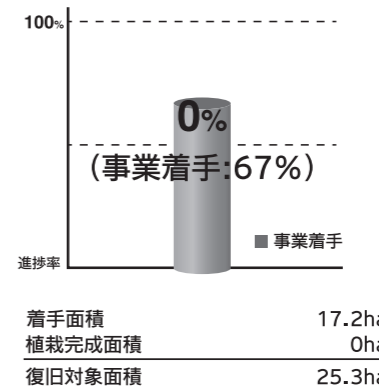


◎復興の進捗状況(平成28年3月31日現在)

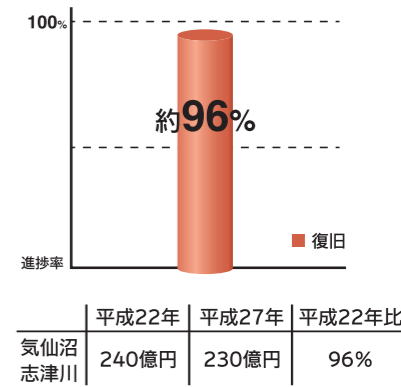
●農地(除塩含)



●海岸防災林(民有林)



●主要魚市場の水揚げ



復興への取組み 05

公共土木施設

気仙沼・本吉地区においては、津波被害が甚大だったことから、嵩上げ工事を基盤にしたまちづくりが行われ、土地区画整理事業と防災集団移転促進事業、災害公営住宅整備事業、津波復興拠点整備事業等が併せて進められました。そのひとつとして、南三陸町の志津川地区では、「南三陸町志津川地区ランドデザイン」が策定され、震災以前までの土地の記憶を継承し、新たな賑わい空間を形成する取り組みがなされています。歌津地区においても交流人口の拡大とまちなか再生の取り組みが進められています。

道路整備に関しては、この地域の物流を担う三陸縦貫自動車道の整備が進められました。登米志津川道路の三滝堂IC～志津川ICが平成28年10月に開通しました。南三陸道路の志津川IC～南三陸海岸ICは平成29年3月に開通を予定しています。

また、南三陸道路の南三陸海岸IC～(仮称)歌津ICと本吉気仙沼道路が平成29年度

に、歌津本吉道路の(仮称)歌津IC～(仮称)卯名沢IC、本吉気仙沼道路Ⅱ期、唐桑高田道路が平成30年度に、気仙沼道路の(仮称)気仙沼IC～(仮称)気仙沼港ICが平成31年度に、歌津本吉道路の(仮称)卯名沢IC～(仮称)本吉ICが平成32年度に開通することを目指して工事が進められています。そのほか、防災集団移転促進事業に伴い、そのアクセス道路の工事も進められました。また気仙沼市では、平成26年10月に東舞根トンネルの<sup>ひがしきろぬ</sup>開通、平成28年3月に唐桑町東舞根と唐桑町浦を結ぶ東舞根復興道路の完成等、整備が進んでいます。そのほか、南三陸町戸倉地区の高台団地へのアクセス道路である国道398号戸倉波伝谷復興道路が平成28年8月に完成予定です。

平成25年に、気仙沼市の離島・大島と本土を結ぶ大島架橋の工事が着工しました。橋が完成すれば、島と三陸沿岸道路の接続も容易になり、緊急輸送道路が確保され、産業の振興も期待できます。平成28年7月

にはアーチ橋本体の組み立て工事を開始し、平成30年度の完成を目指して工事が進められています。

防災公園の整備として、平成27年度から気仙沼市の松崎尾崎地区で工事が始まりました。公園のランドマークとして、津波からの緊急避難先となる築山が作られる予定です。また、南三陸町志津川都市計画区域内で、八幡川西側とJR気仙沼線に囲まれた区域を中心に、防災機能を備え持ち、南三陸町の鎮魂と復興の象徴として防災文化を育むメモリアル公園を整備する計画が進んでいます。

河川・海岸施設については、L1津波堤防として荒谷前地区海岸の工事が平成28年1月に終了しました。気仙沼港(商港)岸壁は、壊滅的な被害を受けましたが、岸壁や道路等が被災前の高さまで戻され、防潮堤も整備されました。気仙沼市内の鹿折川や南三陸町の八幡川、新井田川では、まちづくりと一体的な河川整備も進められています。



写真:「志津川地区ランドデザイン」イメージベース(南三陸町)



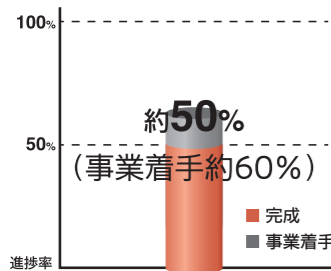
写真:大島架橋乙女2号トンネル(気仙沼市)



写真:荒谷前地区海岸津波防波堤(気仙沼市)

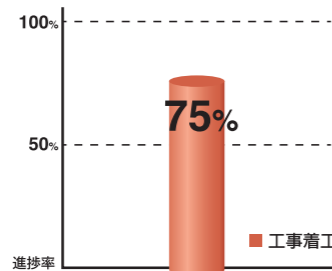
◎復興の進捗状況(平成28年3月31日現在)

●道路・橋梁(復旧工事)



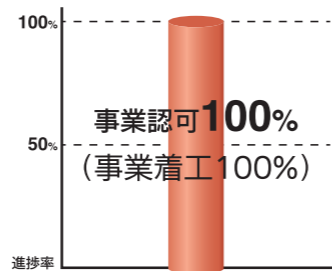
工事着手箇所数	395箇所
工事完成箇所数	329箇所
被災箇所数	656箇所

●津波復興拠点整備事業



工事着工地区数	3地区
事業認可地区数	4地区

●被災市街地復興土地区画整理事業



工事着工地区数	4地区
事業認可地区数	4地区
計画地区数	4地区

復興への取組み 06

教育

このエリアにある公立小・中学校48校のうち、津波の被害を受けた学校は、気仙沼市の南気仙沼小学校及び鹿折小学校、大谷小学校、大谷中学校、南三陸町の戸倉小学校及び名足小学校、戸倉中学校の7校でした。

気仙沼市では南気仙沼小学校、南三陸町では戸倉中学校が震災の影響により閉校となりましたが、戸倉小学校が平成27年10月4日に新築落成式を迎え、公立小・中学校の復旧率は100%となりました。また、気仙沼市立白山小学校は、児童数減少により平成27年4月1日に鹿折小学校と統合しました。なお、気仙沼市内の小学校では、空間放射線量率の測定が行われ、児童の安全確保に努めています。また、南三陸町では、被災した学校給食センターの新築整備も、平成30年4月稼働を目指し、志津川中央地区で進められています。

気仙沼向洋高校旧校舎は、平成27年7月に震災遺構として保存整備することが決

定しました。今後は岩井崎プロムナードセンターを隣接地に復旧させ、施設内部で展示を行うとともに、防災・減災教育プログラム等を企画・実施する場として活用することとしています。保存や整備には国の復興交付金を活用し、完成時期は平成31年3月を予定しています。

気仙沼市では震災を教訓として生かすため、学校を中心に様々な防災教育が取り組まれています。平成26年度には防災学習シートを作成、平成27年度には「防災担当主幹教諭研修・会議」を立ち上げ、防災主任研修会の運営と防災主任の育成が図られました。また平成27年9月に、気仙沼市内各地で全国の大学が行っていた復興支援活動についての活動を報告する、気仙沼大学ネットワーク活動報告会が開催されたほか、平成28年1月に開催された「気仙沼市防災フォーラム」では、東北大学災害科学国際研究所の研究者をはじめNPO、自主防災組織関係者、市内の高校生、中学

生も交えてパネルディスカッションが行われました。

南三陸町では、語り部による学びのプログラムを充実させ、震災の風化防止に取り組んでいます。平成26年度は埼玉県立川越西高校からの南三陸ボランティアバスツアーを受け入れました。

文化財等に関しては、津波で被害を受けたものの奇跡的に残り、保存のため搬出されていた気仙沼市波路上岩井崎にある「龍の松」が、防腐加工等の保存処理が終了したことから、平成28年3月に元の場所に戻されました。震災の記録を後世に伝えるとともに岩井崎の観光資源として活用するため、現地にて保存されます。



写真:龍の松(気仙沼市)



写真:戸倉小学校落成(南三陸町)



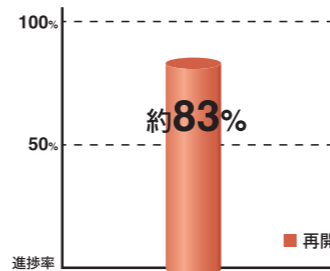
写真:気仙沼防災会議棟模様(気仙沼市)



写真:気仙沼大学ネットワーク報告会(気仙沼市)

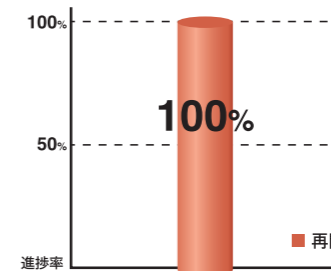
◎復興の進捗状況(平成28年3月31日現在)

●県立学校施設(復旧工事)



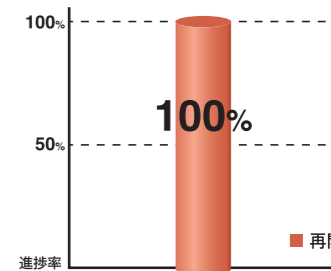
再開施設数	5施設
被災施設数	6施設

●県立社会教育・体育施設



再開施設数	1施設
被災施設数	1施設

●市町村立学校施設



再開施設数	46施設
被災施設数	46施設

復興への取組み 07

防災・安心・安全

県では「宮城県沿岸懇談会」や「宮城県沿岸行政連絡協議会」等で意見を取りまとめ、平成28年度に海岸保全基本計画を変更する予定としています。

リアス式海岸を抱える三陸南海岸では、水産業が主な産業となっている地域特性を踏まえ、環境に配慮した防災対策が求められています。

このエリアでは、津波被害が甚大だったことから、災害時に拠点となる多くの公共施設・公共機関が仮設での運営を余儀なくされていました。平成26・27年度で再建し、本格的な稼働が始まりました。

宮城県気仙沼合同庁舎は被災し仮設庁舎等での業務を再開していましたが、仮設庁舎がある、かなえがうら 浦高校跡地で平成28年2月に建設工事を開始し、平成29年10月の開所を予定しています。南三陸町にあった南三陸教育事務所、本吉町にあった農業改良普及センターも統合される計画です。

警察に関しては、被災して仮設庁舎で業務を行っていた気仙沼警察署を、平成28年3月に浦高校跡地に再建したほか、南三陸警察署、気仙沼警察署南町交番、南三陸警察署戸倉駐在所は、移転して再建する予定となっています。

消防に関しては、被災した気仙沼消防署南町出張所を古町に移動し、平成26年8月に古町出張所として業務開始しました。また、平成28年6月には唐桑出張所の新庁舎が完成し、業務を開始する予定です。南三陸消防署は仮設庁舎での業務が続いていますが、同署歌津出張所は平成29年5月から業務を開始する予定です。

また、震災を教訓とした防災・減災についての様々な取組みが行われています。平成27年6月に、みやぎ県民防災の日(6月12日)に先立ち、気仙沼市総合防災訓練が実施されました。災害対応図上シミュレーション訓練として、全国の防災対策の参考

とされました。

避難所については、気仙沼市では気仙沼漁業組合等に協力を要請し津波避難ビルの指定を推進しています。南三陸町では、高台造成等の新しい土地利用展開に合わせて、高台の住まいと沿岸のなりわいの場所を結ぶ、復興拠点連絡道路事業や高台避難道路事業が進んでいます。

そのほか情報の提供について、南三陸町では、インターネットを通じた新たな情報提供手段としてツイッターを活用した情報配信を平成26年11月1日から開始したほか、気仙沼市では防災行政無線のテレホンサービスのフリーダイヤル提供が平成28年4月1日から開始予定です。

また南三陸町では平成27年に東日本大震災における津波の浸水実績や土砂災害警戒区域等の情報を記載した「南三陸町防災マップ」を作成する等、防災のための取組みが進みました。



写真:宮城県気仙沼合同庁舎完成予定図

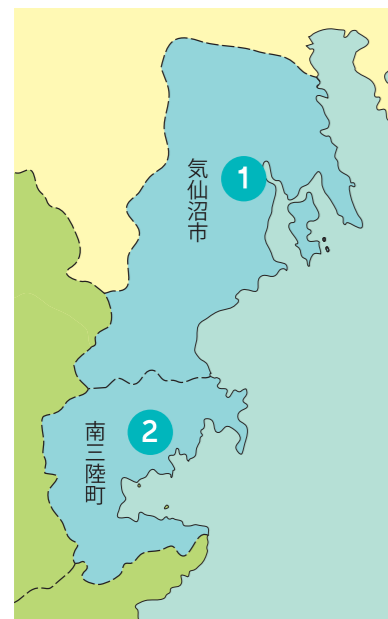


写真:気仙沼警察署新庁舎(気仙沼市)



写真:南三陸町防災マップ(南三陸町)

● 気仙沼・本吉エリアの震災遺構



1 旧気仙沼向洋高等学校校舎(震災遺構)



平成30年度末開館予定

東日本大震災の津波で、校舎4階まで浸水。生徒170人は内陸に避難し、校舎に残った教員等約50人は翌日になって脱出しました。資料館を併設し、映像や写真などの展示及び防災・減災教育プログラムを実施します。

DATA

所在地: 気仙沼市波路上瀬向9-1  
問合せ先: 0226-22-3408(気仙沼市震災復興企画課)

2 南三陸町旧防災対策庁舎(震災遺構)



東日本大震災の津波により、屋上の床上約2mの高さまで浸水。当時無事が確認されたのは30人の職員のうちわずか8人という悲劇の現場となり、震災の記憶として遺すため、震災遺構として保存されることになりました。

DATA

所在地: 宮城県本吉郡南三陸町志津川字塩入77  
問合せ先: 0226-46-1371(南三陸町企画課 政策調整係)

■ 復旧・復興状況(定点観測)

気仙沼市唐桑地区



気仙沼市魚市場前地区



気仙沼市本吉地区



南三陸町歌津地区



南三陸町志津川地区



南三陸町戸倉地区

